

# 「狭山の文化人を知ろうプロジェクト」 2年目を迎えて

当プロジェクトは平成29年に発足し、「狭山市にゆかりのある優れた文化人を市民に紹介する」目的で活動を始めました。初年度は、故広沢謙一先生を中心に7名で話し合い、本誌「文化のいぶき」や、狭山市民芸術祭でのパネル展示などで、狭山にゆかりのある著名な文化人(故人)を紹介しました。

広沢謙一先生亡き後、仲川幸成氏・権田恒夫氏・小澤秀紀氏(市民文化課)を新メンバーに迎え、今年度の活動を開始しました。

今後の活動方針は

- ①物故者のみではなく、現在活躍の文化人を取材し広める。生の声を聞く、活動の様子を録画する等の取材をし、それを様々な場面で市民に紹介していく。
- ②文化人リストを作成する。
- ③文化人探しの協力依頼をしていく。

発足してまだ1年足らずですが、プロジェクト活動が徐々に進んでいます。今後は、市民文化課と協力して狭山の文化人を更にリストアップし、市民に紹介していきたいと思えます。

皆様からの文化人情報、お待ちしております。

プロジェクトリーダー 小川豊子

## 「広沢謙一先生を偲ぶ会」に多くの文化人が集う



挨拶をする仲川幸成 発起人代表

5月28日、ライブステーション狭山にて、1月30日に急逝された広沢謙一先生を偲ぶ会が行われました。この偲ぶ会は、仲川幸成 前狭山市長の呼びかけで、広沢先生と深く関わりのあった、高橋光昭 元博物館長、及び、狭山童句研究会、狂言入間川を観る会、さやま市民大学、当文団連、そして市職員の有志が発起人となり企画されたものです。

当日は、小谷野 剛 狭山市長を始めとするご来賓の方々、ご遺族、ご友人の皆様、上記の団体・機関や古典文学勉強サークルに所属しているの方々、その他、175名が集まり、広沢先生の思い出を語って先生を追悼しました。

また、28日から31日の間、中央公民館で「広沢謙一先生の思い出展」が同時開催され、先生の著書や童句作品、活動光景写真・ビデオなどの展示を見て、多くの来場者が広沢先生を偲んでいました。

### 「広沢謙一先生を偲ぶ会」に参加して

「偲ぶ会」では、広沢先生にご縁の深い方々のお話から、改めて先生の業績の大きさを認識するとともに、おおらかで包容力のあるお人柄が思い出され、温かい気持ちになりました。小高顧問が紹介された高校時代のエピソードでは、先生は陸上部に入り、800mの選手として活躍されていたとのこと。正に文武両道。颯爽と校庭を走る広沢青年を思い浮かべました。

私が先生とお話しさせていただくようになったのは、一年前の「狭山の文化人を知ろうプロジェクト」からです。文学、郷土史など文化に造詣の深い先生はプロジェクトの指導者であり、精神的支柱でもありました。私のような新参者にも豊かな知識や経験を惜しみなく教えてくださり、貴重な資料も快く貸してくださいました。先生のお話はいつも楽しく、知的な刺激に満ちていました。

偲ぶ会では、プロジェクトメンバーの板屋さん、岸野さん、私の三人で、第10回狭山市民芸術祭の小ホール公演のために先生が書かれた新話『ミナさんの地蔵様』を朗読させていただきました。先生への感謝の気持ちを込め、また、会場の皆様に、先生の作品に込めた思いが伝わるように読ませていただきました。大きな青空のような存在だった広沢先生、いつものように「いいよ、いいよ、よかったよ」と空の上から言ってくださったのでしょうか。

張替絹子